

作業療法だより

暑い日が続きます。つい外に出るのがおっくうになりがちな季節ですね。

さて、今回は車イスについての説明をさせて頂こうと思います。

自分にぴったりの車椅子を選ぶことで、暑い夏の移動を少しでも楽に行うための参考にして頂けれ

ばと思います。また車椅子に座っている人は地面からの照り返しがより強い為、熱中症にはお気を付け下さい。



自走用車椅子

自走用は自分で操作・走行することを前提として作られています。

- ・タイヤの周りにハンドリムと呼ばれるタイヤを手でこぐ為の部分がある。
- ・後輪が大きく、安定性に優れており、振動が伝わりにくい。



介助用車椅子

介助用は人に押してもらうことを前提として作られています。

- ・取手の部分に介助者が使う為のブレーキが付いている。
- ・後輪が小さく、小回りが利く。
- ・自走用よりも重量が軽く、コンパクトな物が多い



その他に、モジュール型・リクライニング型と呼ばれる物があります。

モジュール型

- ・座面の高さや背もたれの張り具合(角度)、車輪の位置を調節し、利用者にあわせられる。
- ・価格が高い。



リクライニング型

- ・背もたれの角度を調節できる。
- ・車椅子全体を傾けられるティルト機能が付いている物もある。



このように車椅子にはそれぞれ特徴をもっていてその用途にあった車イスを選ぶことが車イス生活を助ける手段の一つです。

以下に標準的な車椅子のポイントをあげてみました。

・背もたれ

身体の背を支えるための部分。自走の為には手を大きく動かす必要がありますのでそれを妨げないような低さ。しかし座った時に背筋がきっちり安定しない人は高さが必要。

・レッグサポート

膝から下の足を支える為の部分。固定されている事が多いが、移乗する時に介助が必要な方にとっては邪魔になるため、取り外しができる着脱式や、横に開ける物がある。

・フットサポート

足を乗せる台。上へ跳ね上げることが可能。

・アームサポート

腕を支える為の部分。レッグサポートと同じく移乗する時には着脱できる物や横・下方に開く物や後方に跳ね上げることができる物がある。

・車椅子で食卓に入ろうとするなら、アームサポートが食卓の台に当たらない高さの物が、奥までセットでき、食事姿勢の安定化につながる。

・ティッピングレバー

後方への転倒防止装置。



・車椅子の重量

介助者の目線で考えると⇒軽く、コンパクトな介助用がいいが、長時間座っているには不安定であったり、臀部に痛みを生じる可能性がある。

利用者の目線で考えると⇒乗り心地を優先すると重くなり、介助者にとっては車などへの積み下ろしが不便。